

特別展示「外交史料に見る日本万国博覧会への道」について  
(参考資料)

外交史料館では、2010年7月5日(月)から10月29日(金)までの間、日本が初めて万博を主催するまでの経緯を回顧する特別展示「外交史料に見る日本万国博覧会への道」を開催する。

この特別展示は、本年が日本で初めて開催された1970年「日本万国博覧会」(大阪万博)から40年となることもあり、大阪万博開催までの日本と万博との係わりを外交史料によって振り返るものである。日本での万博は、初めて日本が参加したパリ万博(1867年)から明治・大正・昭和の100年あまりを経て開催されたものであった。

展示史料は全20点(全て原本)。主な展示史料は以下のとおり。

**主な展示史料**

**1. 1867年のパリ万博参加関係史料**

幕末の日本が初めて参加した1867年(慶応3年)のパリ万博の史料を展示する。同万博では、徳川幕府がフランス公使ロッシュの勧誘に応じて出品するとともに、将軍徳川慶喜の弟・昭武(あきたけ)を代表として派遣した。

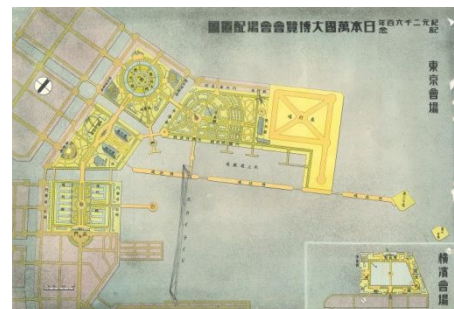
また、徳川幕府以外に薩摩藩、佐賀藩も出品。薩摩藩は、独自の勲章を作成・配布するなど、独立政府として出品したため、日本の正当政府としての立場をアピールしたい幕府との対立が生じた。



パリ万博参加の際に薩摩藩が  
作成した勲章の図

**2. 1940年の万博計画関係史料**

1940年の東京万博計画に関する史料を展示する。この万博は、「皇紀2600年」(神武天皇の即位年とされる紀元660年から数える紀年法)奉祝行事の一環として、オリンピック招致とともに計画されたもので、メイン会場には月島・豊洲の埋立地が予定された。しかし、日中戦争の長期化によって開催が延期されたことで、「幻の万



1940年万博計画の「会場配置図」

博」となった。

### 3. 大阪万博（1970年）の「要人記念アルバム」

大阪万博に来場した各国賓客のスナップ写真をまとめたアルバムを展示する。

大阪万博には、参加76カ国（国際機関を含む）のうち70の国又は機関から来賓があった。外交史料館ではこれら70カ国分の「記念アルバム」を所蔵しており、ウ・タント国際連合事務総長、フィリピン大統領夫人イメルダ、エチオピアのハイレ・セラシエ皇帝といった要人の訪日中の横顔がとらえられている。

これらの要人は博覧会会場を訪問し、自国の万博ナショナルデー又はスペシャルデーを主宰するとともに、政財界の要人との会談や産業文化施設の視察を精力的に行った。



大阪万博「要人記念アルバム」

（了）